

鎌倉観光からみた都市構造の変容に関する研究

—(その 2) 名所としての「神社仏閣」の継承状況および存続・消失要因に着目して—

A Study on the Transformation of Urban Structure in Kamakura

—A Focus on the Situation Inherited and the Factor of Continuance and Disappearance of “Shrines and Temples” as Famous Place—

○瀬畑尚紘¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 押田佳子⁴, 下田美羽⁵, 清永修平⁵*Takahiro Sebata¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³, Keiko Oshida⁴, Miu Shimoda⁵, and Syuhei Kiyonaga⁵

Abstract: This purpose is to grasp the situation inherited of the shrines and temples from the early modern age to modern, and the continuance and disappearance factors to the present. As a result, the topography and the social background were heavily involved in these factors of them. Actually, the situation of the existing the shrines and temples was affected by the urban tourism development.

1. 背景および研究目的

前稿では、鎌倉における近代以降の都市整備に着目し、近代の鎌倉観光成立の経緯に関与した都市構造の変容を把握した。また、近代以降の都市整備は、鎌倉の観光形態や見どころに変化をもたらし、特に旅行者の主たる目的地として訪問すると考えられる「名所」への影響は甚大であったと推測できる。現在も鎌倉には神社仏閣が多数存在するが、全盛期には約 600 件存在し^[1]、さらに近世鎌倉観光の発展に伴い広く普及した「東海道名所図会(1797)」などの名所記においても多数記載されていることより、神社仏閣が鎌倉の都市構造を形成する上で重要な要素であったといえる。

そこで本稿では、名所とされる「神社仏閣」を対象として近世から近代における継承状況および現在に至る存続・消失要因を捉えることを目的とする。

2. 研究方法

本稿で対象とする調査範囲、調査文献および分析項目を Table 1 に示す。

3. 結果および考察

Table 1 に示した「鎌倉廃寺事典」と「鎌倉市史社寺編」の読取りより、廃社寺は 242 件抽出できた。そのうち、近世以降の廃社寺は 12 件であり、所在地が特定できたものは 10 件であった。また、近世以前の廃社寺で所在地が特定したものは 72 件であった。さらに平成 18 年発行の地形図より、鎌倉市内に現存する社寺は 168 件を確認した。

Table 1. The method of study (This is the original graph by authors.)

調査範囲	前稿で対象とした鎌倉の範囲(「六浦」「国瀬河」「小壺」「小袋坂」を東西南北の境とした範囲)において、近世以降に廃絶に至った社寺が存在し、地図上にプロットが可能であった地域として、鎌倉の中心部を本稿での調査対象範囲とする。
調査文献 および 分析項目	「鎌倉廃寺事典」 ^[2] と「鎌倉市史社寺編」 ^[3] の読取りより、近世以降の廃社寺における社寺名、所在地・所在地区名、消失要因を把握し、地図上にプロットすることで消失過程の空間的特徴を捉える。その際、近世以前の廃社寺においても所在地が把握できるものは地図上にプロットする。また、国土地理院発行の地形図(平成 18 年版、縮尺 1/25000)の読取りより、現存する社寺の所在地を把握し、地図上にプロットすることで存続に至った要因を空間的特徴より捉える。さらに、「鎌倉市史近代通史編」 ^[4] と「図説鎌倉歴史散歩」 ^[5] の読取りより、鎌倉における都市構造の変容に関わる社会背景を把握し、それらの影響からも「神社仏閣」の存続・消失過程を捉える。

以降では、近世以降と近世以前の廃社寺および現存する社寺を示した地図と近世以降の廃社寺における消失過程が読み取れる記述を示した Figure 1, 近世以降の廃社寺の消失要因、存続期間およびその間の社会背景を示した Table 2 をもとに考察を行う。

(1) 地形的な特徴—Figure 1 の地図より鎌倉は、特徴的な谷戸地形を有しており、特に「5. 興禅寺」の位置する扇ガ谷南部や佐助地区は、現存する社寺と比較して廃社寺が多く、街道から外れた谷戸の奥地に位置する社寺は消失しやすい傾向にあることが伺える。

(2) 歴史的繁栄の地—Figure 1 の地図より、材木座や小坪地区には現存する社寺が圧倒的に多い。これは、かつて材木座周辺が商業地として栄えた地であったことや、災害等で損壊した鶴岡八幡宮を修復する際の材木を運搬する舟を常時停泊させていたことなどより^[6]、地域住民の重要な生活空間であったといえ、信仰される神社仏閣も永続的に存続したと推測できる。

(3) 観光地としての有力社寺の台頭—Figure 1 の地図より、近世以降の廃社寺は「6. 大楽寺」や「10. 理智光寺」など鶴岡八幡宮より東側に多いことが分かる。

Table 2 より、消失要因は 1868(明治元)年の神仏分離令による廃仏毀釈や衰退、移転と様々であるが、衰退や移転に追い込まれた要因として、近世以降の紀行文や絵図の普及により、旅行者は訪問する観光地を厳選するといった観光の効率化を図り、鶴岡八幡宮やその西側に点在する鎌倉五山^{*1}を重点的に巡るようになったことから、鶴岡八幡宮より東側の神社仏閣が所在する地域からは、旅行者の足が遠のいたと推測できる。

(4) 観光化に伴う開発—Figure 1 の地図より、横須賀線沿線や海側に現存する社寺が見受けられる。Table 2 より、1885(明治 18)年の由比ヶ浜に海水浴場の開設から 1889(明治 22)年の横須賀線全線開通と海側への観光化により、それまで内陸に留まっていた観光客の

1: 日大理工・院・不動産 2: 日大理工・教員・建築 3: 日大理工・教員・海建 4: 日大理工・教員・交通 5: 日大理工・学部・海建

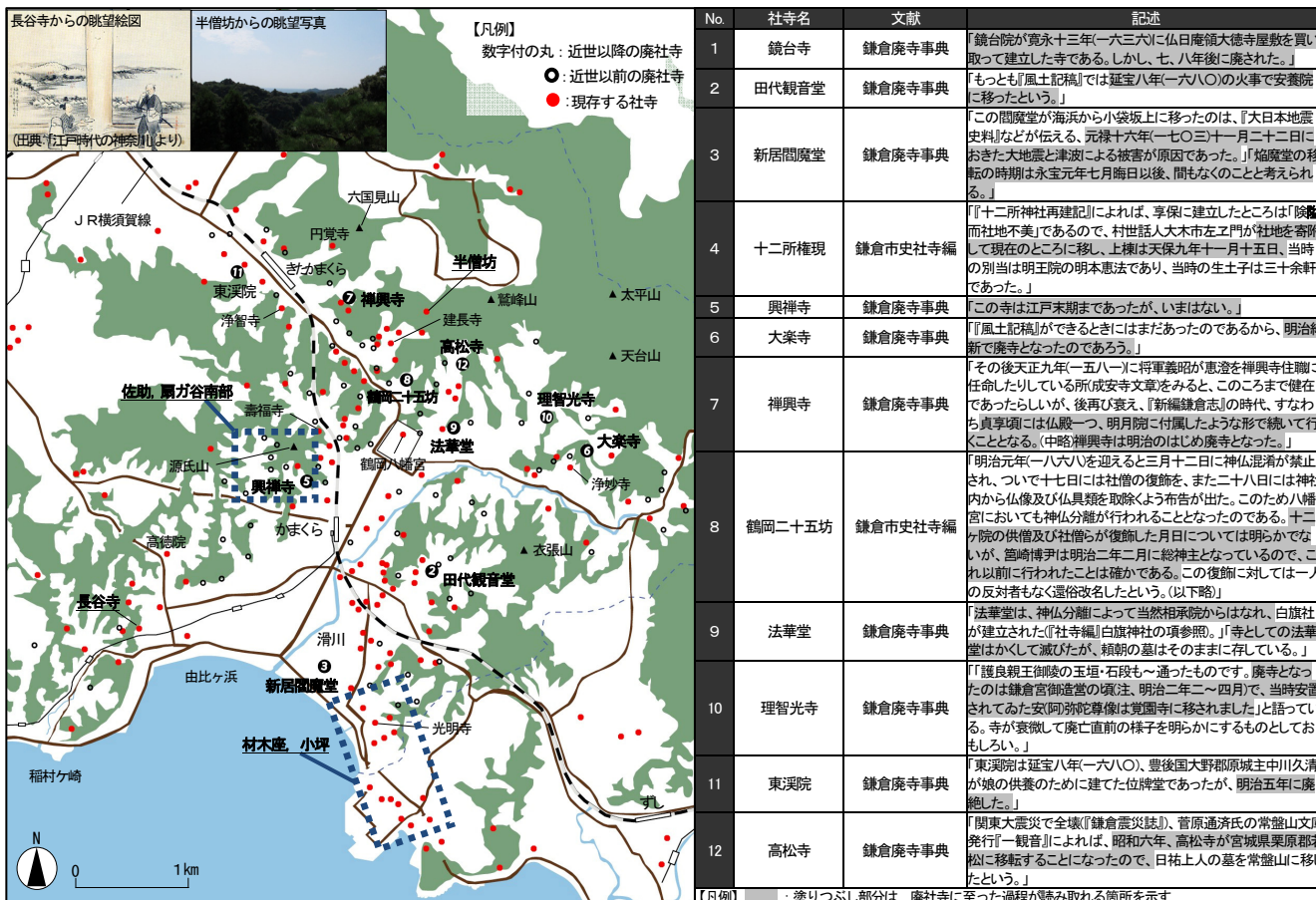


Figure 1. The dilapidated temple, the existent temple and shrine and the disappearance process of dilapidated temple since the early modern age^{[2][3]} (This is the original graph by authors.)

Table 2. The disappearance factor and continuing period of dilapidated temple since the early modern age and the social background^{[4][5]} (This is the original graph by authors.)

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
社寺名	鏡台寺	田代観音堂	新居間魔堂	十二所権現	興禅寺	大楽寺	神興寺	鶴岡二十五坊	法華堂	理智光寺	東溪院	高松寺
所在地区名	不明	大町	由比ヶ浜	十二所	扇ヶ谷	浄明寺	山ノ内	雪ノ下	雪ノ下	二階堂	台	西御門
近世	◆1643(寛永20)~1644(正保元) ・1685(貞享2)年「新編鎌倉志」刊行 ・1859(安政6)年横濱開港	◆1680(延宝8)火災 ▲1680(延宝8)	◆1703(元禄6)地震 ●1704(宝永元)	●1838(天保9)	◆江戸末期頃1853(嘉永6)~1868(慶応4)						◆1680(延宝8)創建	◆1642(寛永19)創建
近代	・1872(明治5)年学制発布	・1868(明治元)年 神仏分離令	・1885(明治18)年 由比ヶ浜に海水浴場開設	・1887(明治20)年 別荘地化の進行	・1889(明治22)年 横須賀線の全線開通	◆明治維新1868(明治元)	▼明治初期頃1868(明治元)	■1868頃(明治元)	■1868(明治元)	▼1869(明治2)	◆1872(明治5)	●1931(昭和6)
	・1889(明治22)年町制施行 ・1894(明治27)年町制施行より鎌倉町誕生	・1923(大正12)年 関東大震災										
	・1939(昭和14)年鎌倉市誕生	・1939(昭和14)年 第二次世界大戦										

【凡例】▼：衰退 ▲：焼失 ●：移転 ■：廃仏毀釈 ◆：不明 ・：社会背景 ◀××：存続期間

足が積極的に由比ヶ浜方面へと向き、周辺の街道が活発に利用されることで、近隣の神社仏閣も名所として確立し、存続に至ったと推測できる。

(5) 景観の継承—Figure 1 の地図上に掲載の歌川広重による長谷寺からの眺望絵図は、近世に描かれたものであるが現在もその景観は良好な状態で継承されている。また、半僧坊からの眺望においては、現在も障害物なく由比ヶ浜や富士山を見渡せる。このように、良好な風景が眺望できる視点場として機能する神社仏閣は、古くから素晴らしい景観が担保されることで、周辺への阻害要素の発生を抑制したといえ、名所として今後も存続させていくべき眺望場所といえよう。

4. 補注・参考文献

- ※1. 鎌倉五山は建長寺、円覚寺、壽福寺、浄智寺、浄妙寺をさす。
- [1]小西秀俊：『鎌倉神社仏閣散歩(遺跡編)』
- [2]眞達人、川原武胤：『鎌倉廃寺事典』、有隣堂、p4, p24, p27, p29, p114, pp. 144~145, p173, p190, p221, pp. 255~256, 1980
- [3]鎌倉市史編纂委員会：『鎌倉市史社寺編』、吉川弘文館、pp. 76~77, p143, 1969
- [4]鎌倉市史編さん委員会：『鎌倉市史近代通史編』、吉川弘文館、p. 4, p91, p132, p161, p321, 1994
- [5]佐藤和彦、錦沼工：『図説鎌倉歴史散歩』、河出書房新社、pp. 127~128, 1995
- [6]白井永二：『鎌倉事典』、東京堂出版、p325, 1992